

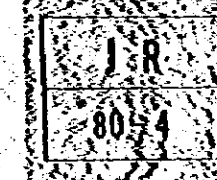
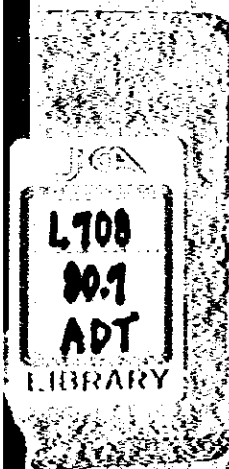
**REPUBLICA DEL PARAGUAY**

**PROYECTOS DE LOS CENTROS REGIONAL  
DE INVESTIGACION AGRICOLA ( CRIA ) Y  
DE MECANIZACION AGRICOLA (CEMA)**

**PLANOS DETALLADOS PARA  
LA OBRA DE LOS CAMPOS EXPERIMENTAL  
Y DE ENTRENAMIENTO**

**MARZO DE 1980**

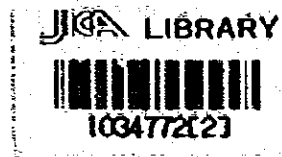
**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON  
( JICA )**



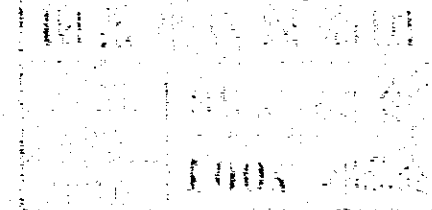
**REPUBLICA DEL PARAGUAY**

**PROYECTOS DE LOS CENTROS REGIONAL  
DE INVESTIGACION AGRICOLA ( CRIA ) Y  
DE MECANIZACION AGRICOLA ( CEMA )**

**PLANOS DETALLADOS PARA  
LA OBRA DE LOS CAMPOS EXPERIMENTAL  
Y DE ENTRENAMIENTO**



**MARZO DE 1980**



**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON  
( JICA )**

國際協力事業団	
箱 55-528	4708
登録No. 07052	1807
	ADT

**PROYECTO DE FORTALECIMIENTO DEL CENTRO REGIONAL DE INVESTIGACION AGRICOLA (CRIA)**

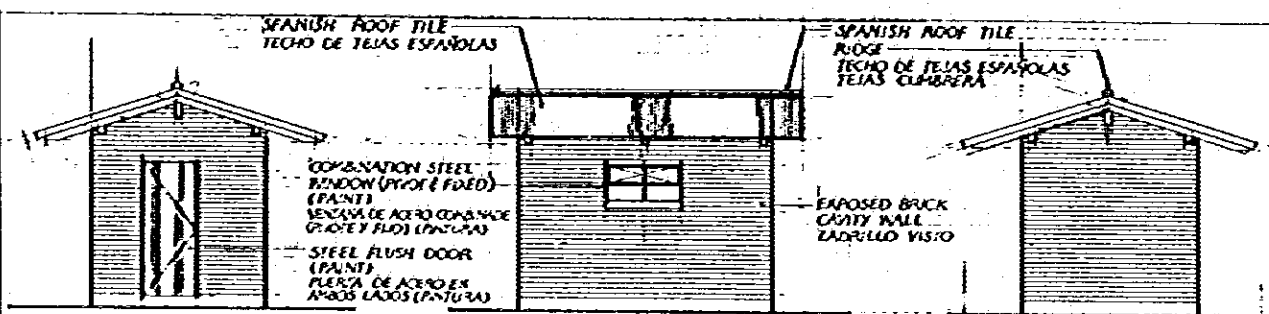
<b>PLANO GENERAL</b>	<b>CR - 01</b>
<b>SISTEMA DE LA TUBERIA DE RIEGO</b>	<b>CR - 02</b>
<b>CASETA DE BOMBA</b>	<b>CR - 03</b>
<b>DETALLE DE VALVULAS, BOCO DE RIEGO Y REGADERAS ROTATIVAS</b>	<b>CR - 04</b>

**PROYECTO DEL CENTRO DE MECANIZACION AGRICOLA (CEMA)**

<b>PLANO GENERAL</b>	<b>CM - 01</b>
<b>OBRA DE DRENAGE</b>	<b>CM - 02</b>
<b>PLANO GENERAL (CAMPO DE ENTRENAMIENTO ANEXO DEL CEMA)</b>	<b>CM - 03</b>



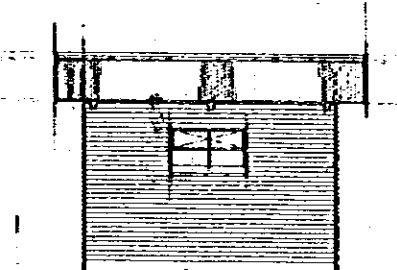




WEST SIDE  
FACHADA OESTE

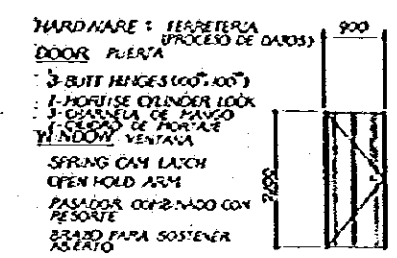
SOUTH SIDE  
FACHADA SUR

EAST SIDE  
FACHADA ESTE



NORTH SIDE  
FACHADA NORTE

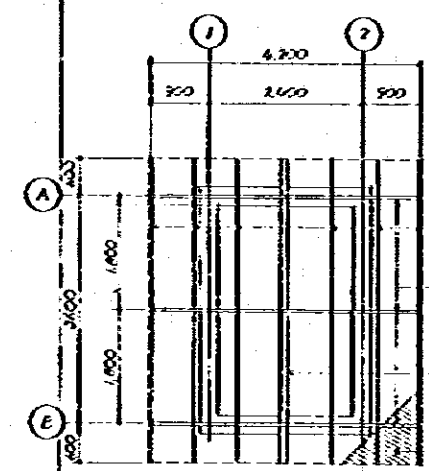
EXTERIOR ELEVATIONS  
SCALE = 1:50 FACHADAS EXTERIORES



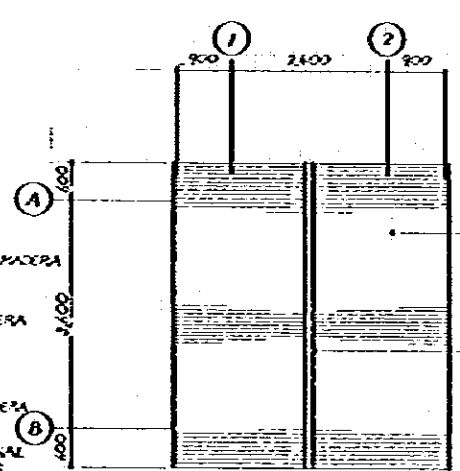
STEEL FLUSH DOOR (PAINT)  
60" THICK  
PLATEA DE ACERO EN AMBOS LADOS (PANTURRAS)

COMBINATION STEEL WINDOW (PIVOT & FIXED) (PAINT)  
VENTANA DE ACERO COMBINADA (PIVOTE Y FIJO) (PANTURRAS)

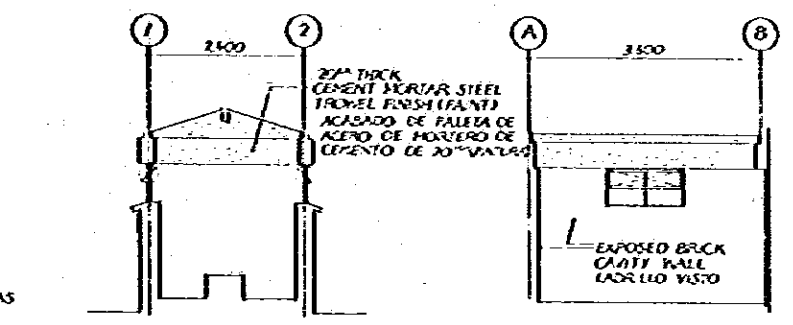
DOOR & WINDOW TYPES  
SCALE = 1:50 TIPOS DE PUERTA Y VENTANA



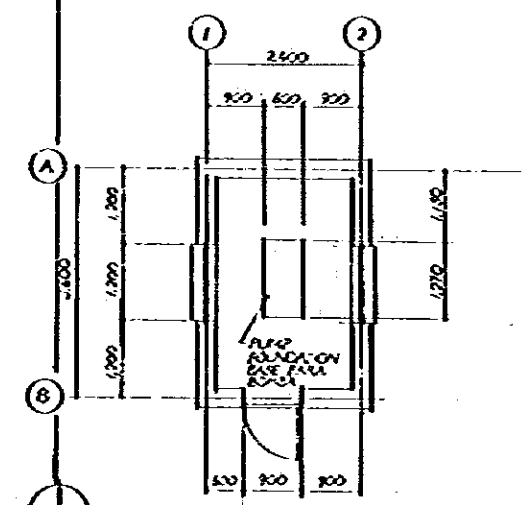
ROOF FRAMING PLAN  
SCALE = 1:50 PLANTA DE TEJOS (ESTRUCTURA)



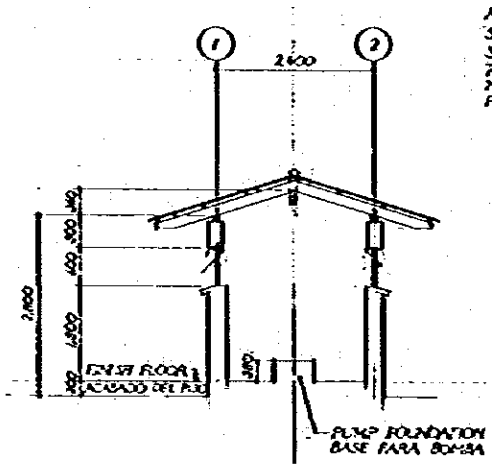
ROOF PLAN  
SCALE = 1:50 PLANTA DE TEJOS



INTERIOR ELEVATIONS  
SCALE = 1:50 ELEVACIONES INTERIORES

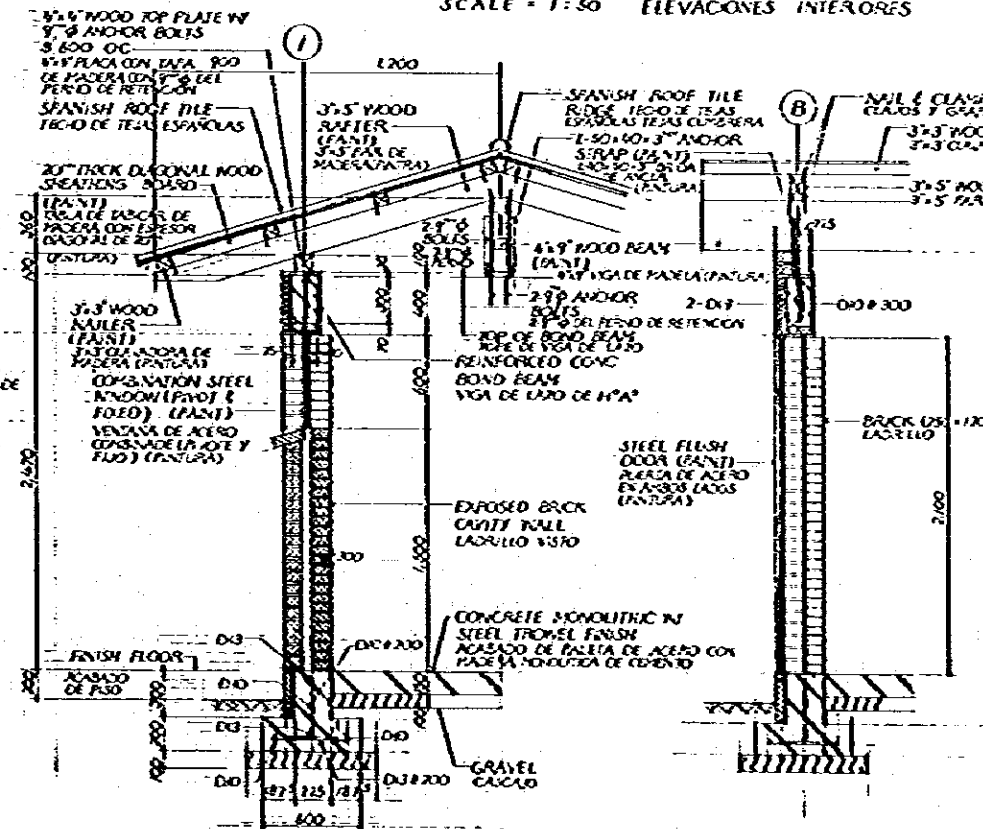


FLOOR PLAN  
SCALE = 1:50 PLANTA DE SUELO



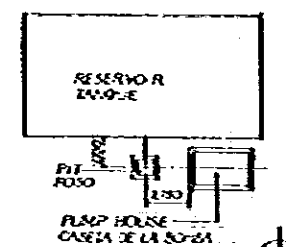
CROSS SECTION  
SCALE = 1:50 CORTE TRANSVERSAL

NOTE:  
ALL LUMBER SURFACES SHALL BE SMOOTH SURFACED BY MACHINE. TODAS LAS SUPERFICIES DE MADERA DEBERA SER PLANADAS A MAQUINA.



WALL SECTION  
SCALE = 1:20 CORTE DE PARED

WALL SECTION  
SCALE = 1:20 CORTE DE PARED



KEY PLAN  
PLANO LOCALIZACIONAL

PROYECTO DE FORTALECIMIENTO DEL CENTRO REGIONAL DE INVESTIGACION AGRICOLA (CORA), CAPITAN MARIANA PASTORQUE

CASETA DE BOMBA

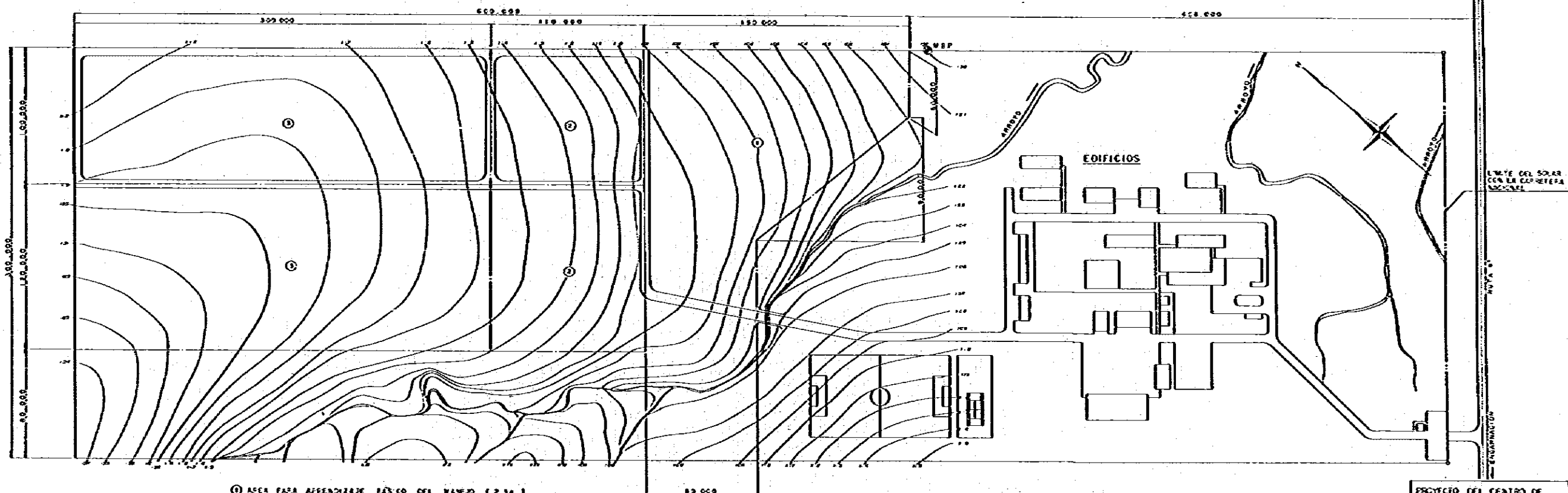
ESCALA : COMO INDICADO EN EL PLANO

FECHA: 25 DE MARZO NR DE PLANO: CR-03

AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON (JICA)



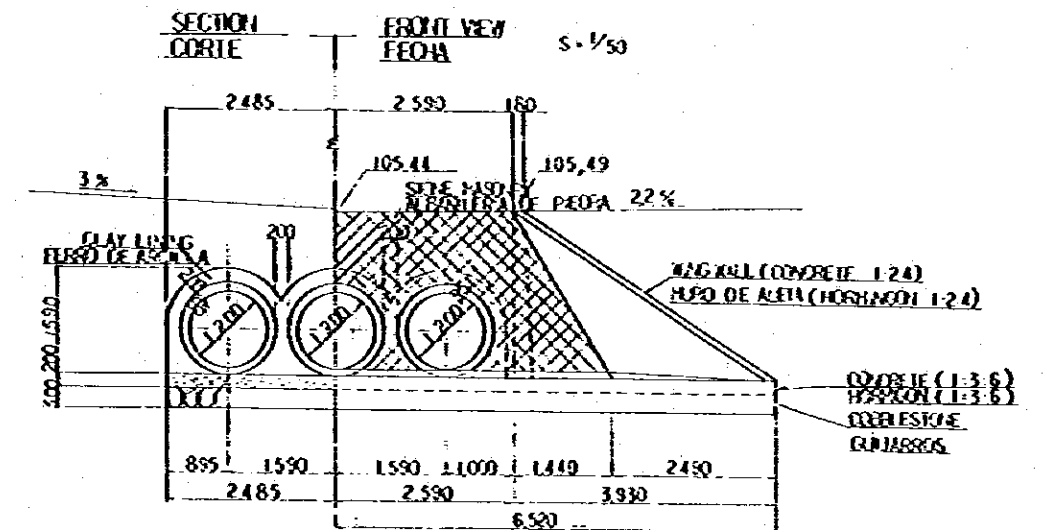
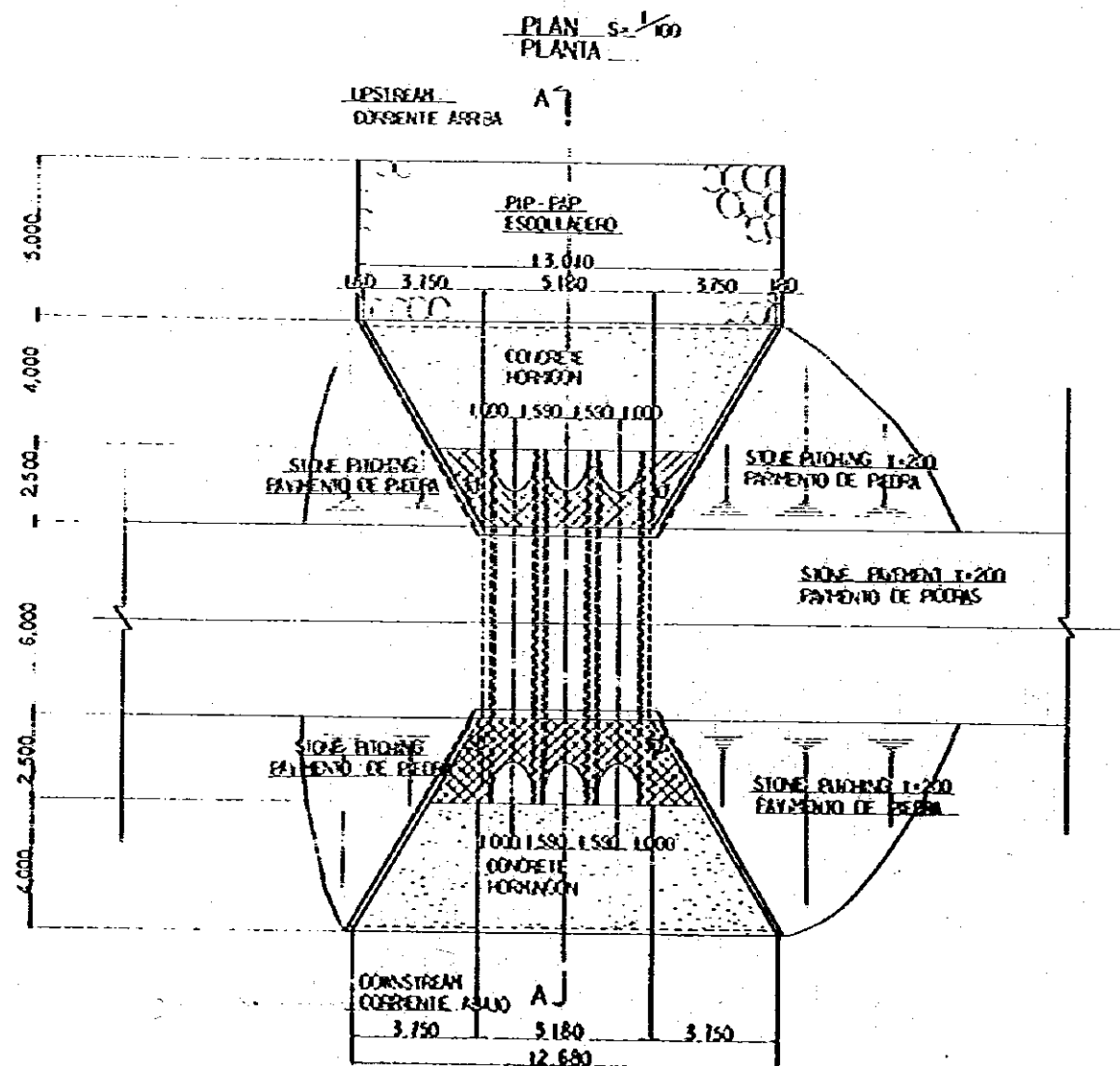
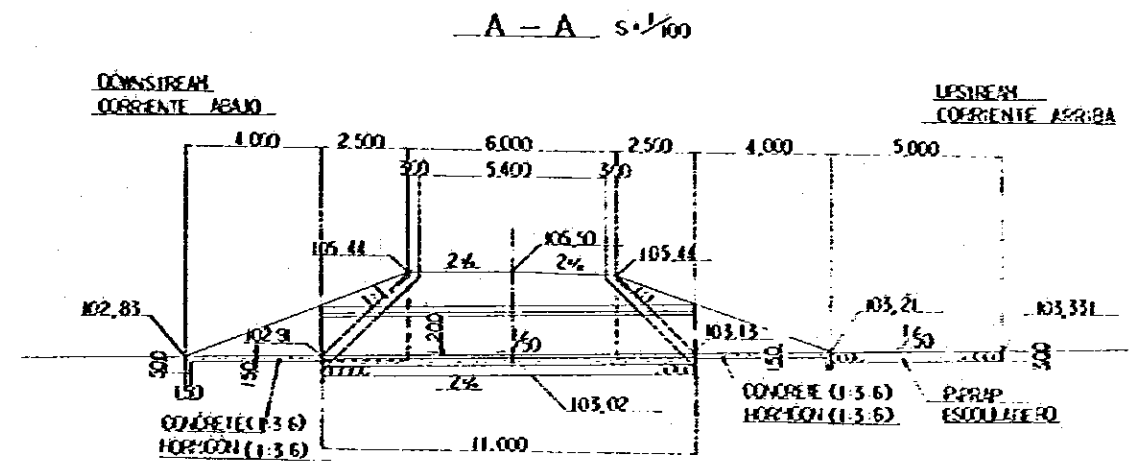
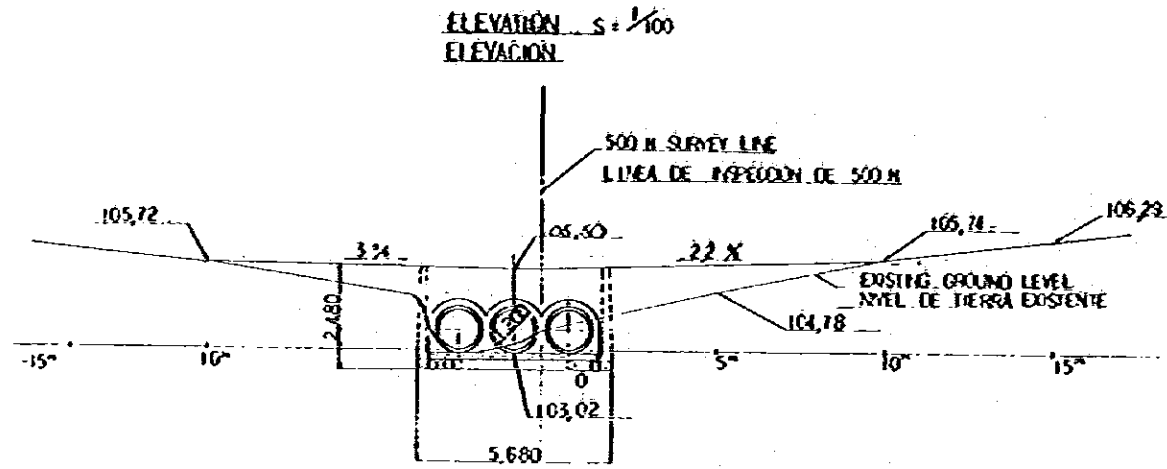




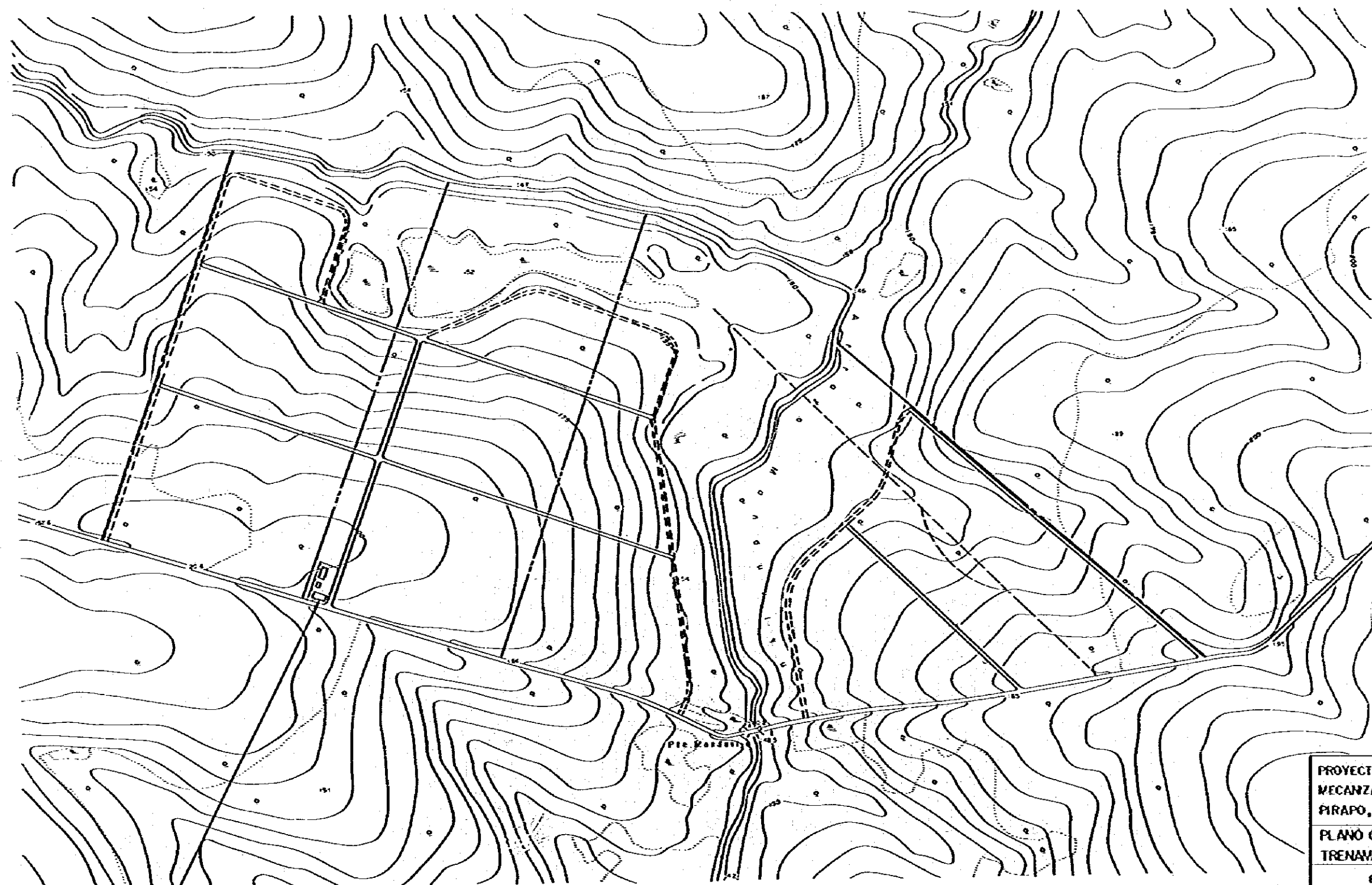
- ① AREA PARA APRENDIZAJE BASICO DEL MANEJO. (2.34.1)
- ② AREA PARA EJECUCION DE APRENDIZAJE BASICO DEL MANEJO. (2.34.2)
- ③ AREA PARA ENTRENAMIENTO TECNICO EN CULTIVO DE LOS PRODUCTOS. (6.34.3)

NOTA: LA CURVA DE NIVEL ES LA ALTURA SOBRE EL NIVEL DEL MAR O/E LA MARCA DE BANCO FONDSOLAR (M.B.P.) DEL SOLAR SEA 100

PROYECTO DEL CENTRO DE MECANIZACION AGRICOLA (CEMA), PIRAPO, PAPAUCAY
<b>PLANO GENERAL</b>
ESCALA 1 : 1,000
FECHA: 25 DE MARZO DE 1970 (M.D.)
AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON (ICAJ)



PROYECTO DEL CENTRO DE MECANIZACION AGRICOLA (CENA), PIRAPO, PARAGUAY	
OBRA DE DRENAGE	
ESCALA	COMO INDICADA EN EL PLANO
FECHA: 25 DE MARZO	NO. DE PLANO: 0405
AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON (JICA)	



INSTALACION DE ALVAZEN Y DEPOSITO

PROYECTO DEL CENTRO DE MECANIZACION AGRICOLA (CEMA), PIRAPO, PARAGUAY	
PLANO GENERAL (CAMPO DE EN- TRENAMIENTO ANEXO DEL CEMA)	
ESCALA 1 : 5.000	
FECHA 25 DE MARZO	Nº DE PLANO: CM 02
AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON (JICA)	

JICA

K  
7-19  
61E

ワイルド・アングレ移住地の概況

一九六三・一・二二



ワイルド・アングレ移住地の概況

1963. 12. 20

( 部内資料 )

ヴァルゼア・アングレグ・移住地の概況

国際協力事業団	
発行年月	84.9.14
登録No.	09595
	L703
	23.4
	EM

1963・12・30

海外移住事業団事業課

JICA LIBRARY

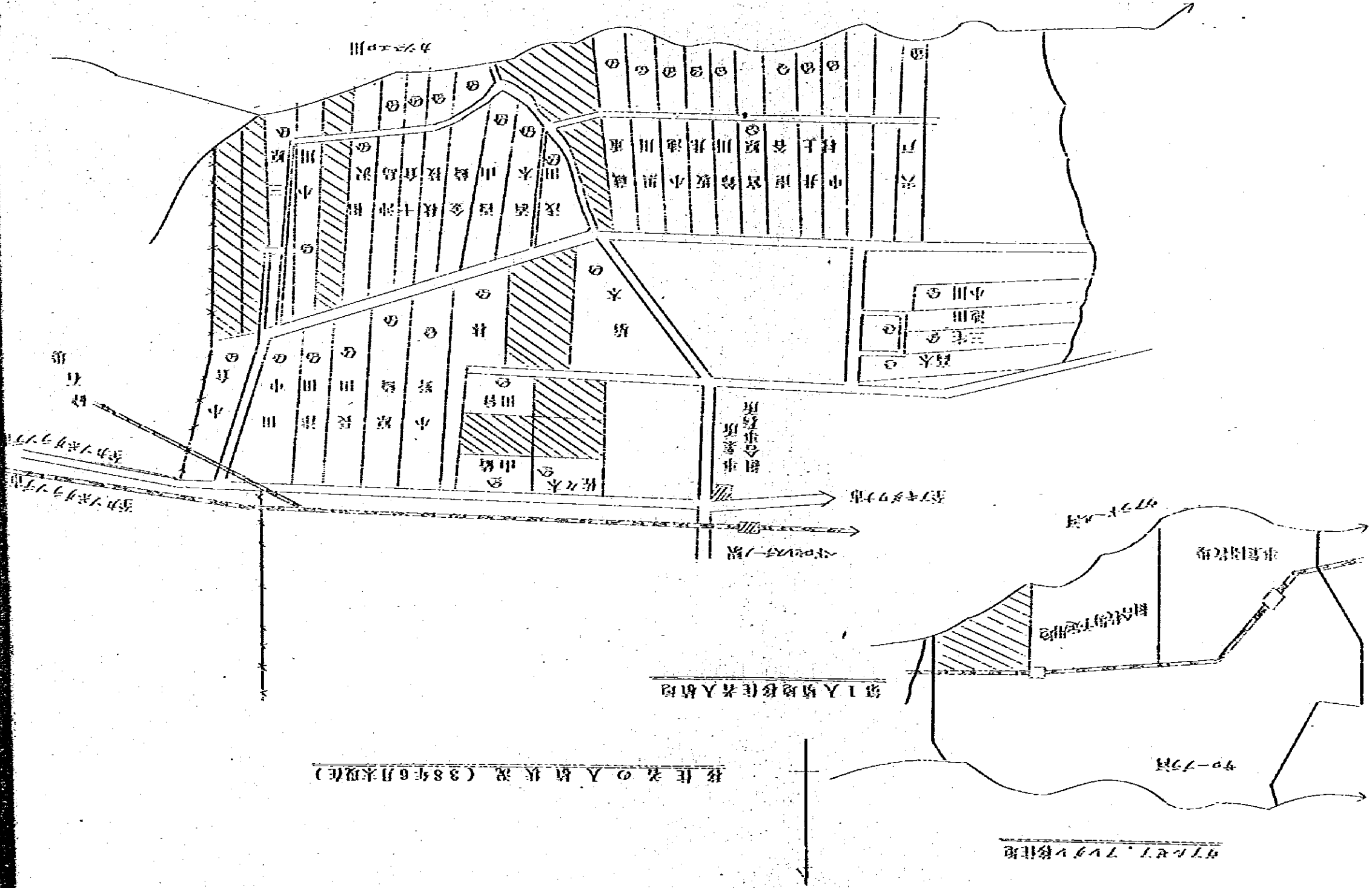


1024568067

はしじめに

本稿は、前ウアアルゼア・アレグレ産業所長内田  
与藤氏（現・農林省技官）の筆によるものである。

本稿は、今後の同移住地運営計画樹立上の参考  
となる他、奥地移住地の教育・医療問題等に示唆  
を与える点が多いので部内資料として印刷した次第  
である。



移住者の入居状況 (38年6月末現在)

第1入居地移住者入居地

40-793. 794. 795. 移住地



## グアルセア・アレグレ移住地の概況

I. 移住地の概要	1頁
1) 位置, 地形, 地質	1
2) 植生	1
3) 気候	1
4) 交通事情	3
5) 附近の都市	3
II. 移住地土地分譲条件	4
III. 移住地の要項	4
IV. 入植者の営業	6
1) 昭和34年度	9
2) 昭和35年度	9
3) 昭和36年度	11
4) 昭和37年度	14
5) 官農資金等の融資	16
V. 入植者の日常生活	17
VI. 移住地内の公共施設	17
VII. 入植者の娯楽, 衛生	17
VIII. 移住地の動物	18
IX. ブラジル人の風俗, 習慣	18
X. 移住地に於ける問題点	19
1) 入植者について	19
2) グアルセア・アレグレ事業所の運営について	20
3) 移住地の管理について	21

## 1. 移住地の概要

ヴァルゼア・アレグレン移住地 (FAZENDA, VARZEA, ALBERE) は、日本海外移住振興株式会社が昭和32年8月24日にブラジル国マツト・グロツン州アレス部 (MUNICÍPIO, TRENOS, EST. MATO,

GROSSO, BRASIL) に36303ヘクタール (災禍面積) の土地を購入して、学校、診療所等の公共施設の建築工事、道路、橋梁、区画割埋灌等の工事を行って完成したものである。

### 1) 位置・地形・地質

移住地は、マツト・グロツン州南部の経済、文化、政治の中心地であるカンボ・グランダ市 (CIDADE,

CAMPO GRANDE) の西方約30KM (南緯20度、西経55度) に位置している。移住地は東西約30KM,

南北約17KMの長方形の地域を占め南側は、カヌエマ川 (CANHOEIRA), 北側はサロプアラ川

(SALGUEIRA) が境界となっている。

移住地の略中央部にノロメタ鉄道 (国際線=サンパウロ〜カンボグランダ〜クルンパ〜ポルビア) が東西に走り、移住地内にベドモレスチーノ駅とムルチーノ駅との2つの駅がある。

鉄道の北側はおおむね平地であるが、南側はゆるやかな丘陵地で、標高は331M (ベドモレスチーノ駅) 内外である。鉄道の南側には4ヶ所、北側には1ヶ所、水産豊富な小川がある。総面積36303ヘクタールの広大な移住地であるため地質は変化に富んでいるが大抵すると鉄道の南側の第1入植地の大部分はク

ラ・ロツア (浚土) でその他は砂質土である。

### 2) 植 生

移住地内には溝渠森林 (MATO) と草原 (CAMPO) とが交叉している。一般に草原は境界河川にそって広がっており、溝渠森林は鉄道の南側に多い。大木は少なく雑木林程度のものなので建築用材としての利用価値は少ない。

3年前までは鉄道の幾何率は新を敷いていたのでその薪材として伐採された地蔵がありその区域は野原となつている。

### 3) 気 候

当地は大陸性の気候であつて、日本のように四季の区別は明確でないが、雨季と乾期とは比較的明確に区分されている。南緯州線に近いため亜熱帯性の気候に属しており、乾期は11月より2月までで晴天の日中は気温が摂氏40度近くにも昇ることがあるが湿度が少ないので日本の夏よりはしど易く、木陰に入れば涼しさを感じるほどである。過去2ヶ年間冬期には川ぞいの低地で1〜2度霜がみられた。又、降雹も時々あり西瓜、トマト等の栽培初期に甚大な被害を与えた。

降雨量は年間1,600mm程度であるが、降雨の時期が年間一定でないため作物に干魃の被害を与え、過去3ヶ年人植者は陸地の干魃被害により大なる打撃を受けた。

降雨は豪雨型で短期間に多量であるため耕地の表土流亡が大きく、地方の消耗が甚しいのでこの防止対策が必要である。

農作物の生育に最も関係の深い年間降雨量を示すと次の通りである。



4) 交通事情

ノロニササ鉄道はサンパウロとクルンパ間には1日1往復、グアイセル車(1輛)はカンポグラングとアキダグワ間には1日2往復、カンポグラングとクルンパ間には週2往復運行されている。バス(ONIBUS)はカンポグラングと移住地間を毎日不定時に運行されており、グアルゼア・アレグレ遊業組合のトラックも週1回カンポグラングとの間を定期的に運行しているので移住者は日帰りでもカンポグラング市で用件を済ませることが出来るようになった。農産物(穀類、野菜、鶏卵等)は列車及びトラックでサンパウロやカンポグラングに出荷されている。カンポグラングからアレンスまでの道路は既に舗装されているが、連邦政府の道路5ヶ年計画により移住地内縦断道路も近く舗装されることになっている。

5) 附近の都市

マツトグロソソ州の主要都市は、クヤバ市(JUIABA)、カンポグラング市(JAMPO GRANDE)、ドラードス市(DOURADOS)、アキダグワ市(AQUIDAUANA)、クルンパ市(CORUMBA)、トレスラグア市(TRES LAGOAS)、リオ・ブリランサ市(RIO BRILANTE)及びミランダ市(MIRANDA)等である。

主要都市は州北部には僅か州政府の所在地であるクヤバ市のみで、他は殆んどが商館に所在している。州の南端はサンパウロ州、パラナ州に隣接している為、開発が進み、州では最も発展した地域である。

主要都市及びその近郊に在住する日本人戸数は次の通りである。

(カンポグラング市日系青年会 1963年調査)

なお、近時当州にはサンパウロ州、パラナ州より移住する日本人が多くなり、突地開発に貢献している。

クヤバ市	120戸	ボンポラン市	80戸
ロンドノポリス市	200"	コンノ市	30"
カセレス市	40"	ムツノ	120"
クルンパ市	70"	リオネグロ	90"
リオ・ブエルズ市	76"		
アキダグワ市	180"		
カンポグラング市	1,500"	合計	3,846戸
(移住地を含む)			
ドラードス市	800"		

カンポグラング市は州南部で最も大きな都市で、人口約10万人、日本人の居住者も多い。グアルゼア・アレグレ移住地の入植者に最も関係が深い都市で、近年急速に発展し、マツト・グロソソ州第1位の都市になりつつある。市街は10km間隔に道路が縦横に造られ、道路に面した家屋には一連の番号が付いているので非常に好都合である。カンポグラング市内に居住している日本人の職業としては、八百屋、食料(パール)が多く、他に写真屋、医師、税務、精米所、印刷店、靴屋、雜貨店、自動車修理工場、自動車部品店等があり、日本人は日常日本語を使用しており、不便は感じられない。

市近郊の日本人農家は耕地8〜5ヘクタール程度を所有し、野菜(トマト、南瓜、茄子、葱、大根、甘藷等)作及び養鶏を主としている。野菜作を主とする農家は殆んどが青果市場(NERJADO)に販売店(販売台)を持ち、男子が生産した野菜を婦人が販売している。

市場内に販売店を持たないものは市場に出荷するとともに毎週木曜、日曜日に開かれる路肩市場(FEIRA)

で販売をしている。

路唐市場では主として野菜、果物、肉(牛、豚、魚)等が販売されるが、その他にも日本の総目のように通常の絶活用品も並べられ夕刻から翌朝の午前中にかけて徹夜で売買が行われる。生きた豚、鶏、アヒル、山羊等も出品されており肉米類特のものである。

市内にはブラジル銀行支店をはじめ各種銀行の支店も10行以上ある。

映画館は3館、うち1館には毎週金曜日と日本映画が上映されているので銀幕映画に恵まれない近郊日本人の利用者が多い。

## II. 移住地土地分譲条件

### 1) 1区画の面積

1区画は平均25ヘクタールで最小12ヘクタール、最大30ヘクタールである。

### 2) 分譲方法

土地代金は渡就前に一括支払う方法と、頭金として土地代金の一部を支払い残額は年利5%3年据置5ヶ年元利均等年賦法の2つの方法がある。

渡就前に土地代金を一括支払い地券を収めた者は小川榮、酒本正男の2名である。

頭金は120,000円、125,000円、200,000円、225,000円の4種類に別れている。

### 3) 分譲価格

1区画の分譲価格はヘクタール当り次の通りに別けられている。

24,000円	24,500円	25,000円	25,500円	26,000円	26,500円
27,000円	27,500円	28,000円			

## III. 移住地の買収

ヴァルゼア・アレグレ移住地は昭和22年9月24日購入、同年末にはヴァルゼア・アレグレ事業所が場所され道路、測量、区画測量等が着工された。

事業所開所当初は土木専門技師である藤井所長をはじめ農業その他の技術者も名が配属され、工事の監督、作物栽培試験、入植者の援助、指導等を行つてきたが、35年より入植者の減少に伴ない職員も減員され、現在所長以下数名がこれらの業務を分担している。

移住地に於ける主たる工事の出来高は次の通りである。

### 1) 測量

河川測量	106,023 KM
既設道路測量	86,582 "
鉄道用地測量	28,150 "
境界線測量	26,119 "
ウツク測量	980,000 ヶ

### 2) 道路工事

新設	10 KM	延長 1.7 KM
"	8 "	26.7 "
道路拡張 (旧道利用)	8 "	16.9 "
牛道新設		7.4 "

3) 公共施設建設

小学校	1棟
倉庫	2 "
収容所	1 "
収容取附属施設	
便所	1棟
洗濯場	1 "
炊事場	1 "
診療所	1 "
宿舎	1 "

4) 其の他

事業所事務所	1棟
" 車庫	1 "
井戸堀	25畝
伐木取扱施設	124ヘクタール
境界柵	2.2KM
栽培試験圃場	7ヶ所

移住地はごに述べた如く、3688ヘクタールもある広大な地域なので当初は1000戸の移住者を受け入れるよう計画され、まず第1次として620ツカ(約1000ヘクタール)に移住者の受け入れが行われた。

その後計画の変更が行われ第1次計画地域以外の地域の造成工事は中止し専ら第1次計画地域の維持管理に当ることとなった。

残り3500ヘクタールの利用方法については種々検討されているが、未だ具体的な利用法は示される段階にいたっていない。

なお、移住地のうち西側の約8000ヘクタールには、昭和37年12月にエケ牧場より210頭の肉用仔牛を移動し放牧試験牧場を行い、荒地利用計画の基礎調査を行っている。

事業所開設以来の歴代所長は、初代藤井延 2代須永進夫(農学) 3代瀧藤健(農学) 4代内田英康(農学)で2代・3代の両所長は何れも在職僅か6ヶ月という短期間のため移住地発展に寄与することは少なかった。

なお、移住地には当初から移住公社職員のみが駐在し、海防連職員は駐在してはいたなかったため移住地の延成から入居者の日常生活の援助、指導等に到る處での業務が少数の公社職員の負担にのしかかり、過剰負担となっていた。

昭和34年5月最初の入居者9家族を迎えた。この地区の38年8月末現在の入居及び退耕戸数並びに退耕者の状況を示すと次の通りである。

イ) 入居状況

入居年次	入居戸数	退耕戸数	現在戸数	入居年次	入居戸数	退耕戸数	現在戸数
年月日	戸	戸	戸	年月日	戸	戸	戸
昭34.5.24	2	4	5	昭35.8.20	1	1	1
7.10	2	-	2	9.1	5	1	4
8.4	1	1	-	10.2	6	1	5
8.27	2	1	1	小計	21	9	22
小計	14	6	8	昭36.5.15	5	3	2
昭35.2.24	2	-	2	8.18	1	-	1
4.25	6	5	1	小計	6	3	3
6.30	6	-	6	昭37.7.14	1	-	1
8.8	5	1	4	合計	52	18	34

ロ) 出身県別入植状況

県名	入植戸数	退却戸数	現在戸数
北海道	1戸	1戸	1戸
山形	1	-	1
福島	1	-	1
新潟	1	1	-
石川	4	2	2
大阪	2	-	2
鳥取	3	3	-
広島	4	3	1
山口	31	5	26
愛媛	3	3	-
福岡	1	1	-
合計	52	18	34

ハ) 退却者の移転先

移転先	戸数
サンパウロ州・アラサツバ市	8戸
" カンピーナス市	1
" サンパウロ市	1
パラナ州・クリチバ市	2
マツトグロツソ州・カンボグランダ市	5
" ドラドス市	4
" アレノス郡	1
ポリビニア	1
計	18

ニ) 退却者の移転先における職業

職業	戸数
農	10戸
牧	1
商	1
計	18

併せて呼称職業が主体をなしている。

昭和37年当初の暴風被害のため、ロツナ変更の希望が出たものとしてロツナ変更を行った者は次の5名である。

突戸 祐雄(福島)、田曾 研司(広島)、十波 多賀男(大阪)、井上 功二(山口)、宮原 正治(山口)

IV. 入植者の畜産状況

如地造成は移民会社所有のプルトーザD7、及びトラック(フォード)を使用して行なわれたので入植者はトラックアイ国移住地のように伐木、山越等の作業に従事することなく入植直後から耕作に従事することが出来たのでこの点突に恵まれた環境にあつたといへるのである。

移住地近傍のブラジル人農場(FAZENDA)では、専ら除種栽培が行なわれていた関係で、入植者もこれを見習い、除種栽培に主力を注いでいた。移住地の所産するカレノス郡はこの州の稲の主要地で、カレノス市にある日本人経営の藤原精米所が入植者から米を購入し精米していた。通時カレノス郡に於ける除種栽培量の減少に伴ない、精米事業も不振に陥り昭和7年に至り遂に藤原精米所は閉鎖されるにいたつた。現在入植者はヴァルゼア・アレグレ除種組合を通じカンボグランダ市に出荷している。

移住地開設当初の稲葉が低くは、この地区の適作物はバナナ、糖蔗、トウモロコシ、マンジョカ、パイ

アツプル及びアエジョン等で最終目標時における畜産事例、作物別栽培期間及び年別営農状況を示すと次の通りであった。

イ) 作物別作付計画面積

作物名	耕作面積	備 考
バナナ	7 ha	耕 馬 1 ~ 2 頭
糖 蔗	5	製 豚 2 "
トウモロコシ	2	肥 資 豚 10 "
アエジョン	4	
マンジロカ	4	股 肥 豚 20 頭
計	22	雑 糞 20 "
森 林	2	
宅 地	1	
合 計	25	

ロ) 作物別収量見込

作物名	ヘクタール当り収量	収 量 見 込
バナナ	1,600 房	1,1200 房
器	40 俵	200 俵
トウモロコシ	40 "	80 "
アエジョン	12 "	48 "
マンジロカ	12 屯	48 屯









3) 昭和36年度(3.6.7～3.7.6)

年末までは好天に恵まれ、各作物とも順調な生育を続けたが、翌37年1月中旬より一雨の降るもなく平天が続いたので、幼穂形成期、出穂開花期にかつた雑種は一部低地ロッサ(0.8=5～1.0秒)に作付されたものを除き、大部分は即年に引越いて干害被害を受け収穫無の状態を呈したが、雑種でも早生種と

か、耐干性の強い種、トウモロコシ等は幸いして被害が軽微であった。然しながら入植以来8ヶ年間打越く陸部の激減の被害により入植者の生活は極度に貧窮し営農を続けることとは困難な状態に陥つたのでこの際営農形態を根本的に再検討する必要が痛感されるにいたつた。昨年実施した営農事業は資金的、技術的、市場的に幾多の問題を内蔵していたにも物わらず充分な検討と具体的な対策が樹立されないうまに送られたので充分な成果をあげてはいたならなかつた。

そのため、営農に代るものとして資金廻転の早い営農について徹底的な検討がなされた結果、その有利性が確認されたので来年度、より経営の中に営農を取り入れることとなり、昭和37年5月より技術指導体制を確立し希望者に対しては移住資金より営農資金の貸付けを行った。

陸糧については被害の比較的軽微な早生種をかえることとなり、昭和37年における作付計画は営農対策としてのトウモロコシを主体とし、これに棉花及び早生雑穀を加味したもので行くことと決定した。

なお、旱害に対する防災営農対策を樹立するまでの活動状況を示すと次のとおりである。

昭和37年2月27日 移住地現況調査

調査員	サンパワロ総領事館	監督領事
	山口県人公長	京野四郎(サンパワロ常議)
	副公長	井上清
	専務理事	野村靖隆
	移住協働会理事	松本隆一
	J.A.M.I.C 社員	米永昭介
	カンパワラン市農業教師	山城クヅ

提示された問題点

- 1) 灌漑排水施設について
- 2) 農業組合の運営方法について
- 3) 土地利用計画の検討について
- 4) 営農計画の検討について
- 5) 農業指導の徹底について
- 6) 子弟の教育について
- 7) 入植者の保健衛生について

昭和37年4月22日 営農、養豚の現地調査

調査員 ユチアア産貸組合 三沢技師(養豚)

中島技師(養豚)

調査 養豚について調査検討

養豚事業について調査検討





4) 昭和37年度(37.7~38.6)

この年は新種期に順調な増産があつたため、トウモロコシ、棉花、稻等の各作物は何れも生育良好であつてない幾作に恵まれ入植者は漸くここに自給自足の体制をとることができた。

一方養鶏事業も昭和38年3月から産卵率が割を越すようになり、併せて出荷体制の確立と市場の開拓が進み更に卵価が急激に上昇するなど、諸条件が好転したためここに始めて入植者の生活安定のきざしがみられるようになった。

これに反し会社の営業指針が養鶏に重点を置かれたため養豚及び養蚕等の経営拡大は停戦状態におかれた。このように養鶏をとり入れることにより次第に入植者の営農も停戦してきてたが過去の数年の凶作に打ちひしがれた入植者の中には移住会社に対する不信と移住地経営に対する自信を失うため退耕して移住地を去つたものができた。その氏名は次の通りである。

野原 強 小杉順一 木原市次郎 首原勝清 長岡彌太郎  
広川 守 中下・清 小川昭司

27年度入植者の作物作付状況等は次の通り

氏名	作付面積		棉	トウモロコシ	豆	アブラムシ	小豆	大豆	落花生	豚卵鶏羽数 (2月末まで)
	bas	mas								
中下 清	17.1	3.0	4.0	8.0	2.0			0.1		
相沢忠寛	11.5	2.0	3.0	6.2				0.5		495
神島義智	17.0	4.0		9.0	1.0			3.0		400
坂根期規	9.3	3.0	1.0	5.0	0.8					
金崎九郎	18.2	4.5	4.0	8.0	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	490
西山照夫	20.5	5.0		8.0	0.5	5.0	1.0	1.0	1.0	510
三原勲作	18.0	2.5	2.0	10.0	1.0	0.5	1.5	0.5	0.5	510
小川佐平治	16.0	2.0		11.0	1.0	2.0				550
小川昭吉	7.2	0.6		1.8	3.0	2.0				
穴戸登雄	12.0	2.0		10.0						480
小野 隆	27.5	10.0	2.5	5.0						
原崎高雄	22.0	6.0	4.5	10.0	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1	850
阿谷満穂	13.8	6.5		6.0	0.3	0.5	0.5			
田中正男	11.7	2.5		5.0	2.0	0.5	1.5	0.2	0.2	650
坂井貞雄	14.7	4.5		5.5	2.0	2.0	0.7			480
鈴川伊助	12.8	7.5		4.5	0.5	0.3				500
津田和三郎	24.8	3.0	3.5	8.0	0.5	0.8	3.5			510
山崎源信	17.2	4.5	1.8	7.5	3.0		0.4			480
長田 治	19.0	3.0	16.0							440
小倉勇一	16.6	4.5	5.0	5.5	1.0	0.3	0.3			510
坂重國造	13.4	2.0		8.0	1.0	2.0	0.4			210
小池 潮	27.0	13.0		2.0	0.5	2.0	0.5			490
黒川 要	13.0	5.5		7.5						440
橋本政雄	25.9	10.0		23.5	1.0	0.4	0.3	0.7	0.7	550
林 信行	12.1	4.0	1.0	7.0	0.1					480
田會敏吉	13.5	4.5		8.5				0.5		
佐々木上	20.0	4.0		14.0	2.0					
十倉多賀男	12.7	2.5	3.0	4.5	0.7	2.0				510
井上勇二	17.3	10.0		3.5	0.5	3.0	0.8	0.5	0.5	
高木平一	11.5	2.0	3.0	6.5						470
三宅義男	15.5	2.5		10.0	3.0					520
小川 栄	27.0	10.0	6.0	3.0	3.0	4.0		1.0	1.0	
酒本正男	7.0	4.0		3.0						100
宮原正治	7.7	3.0		3.5	1.0	0.2				490
池田 節	15.0	2.5	6.0	5.5		1.0				
浅田憲昭	4.9	1.0		2.6	1.0			0.3	0.3	520
中村喬二	12.3	2.0		10.0			0.8			
合計	592.5	165.1	81.3	262.4	32.8	20.5	16.1	5.3	5.3	
27 戸平均	16.0	4.4	2.2	7.1	0.8	0.8				



昭和38年6月に於ける生産物販売価格

イ) 農作物

除 種(株)	1 袋 (60kg)	3,600	クルセイロス
棉 花	17ローバ (15kg)	1,100	"
トウモロコシ	1 袋 (60kg)	950	"
緑 豆	1 袋 (60kg)	5,000	"
アエシロン	1 袋 (60kg)	5,000	"

ロ) 町営り平年取数

除 種(株)	40 袋
棉 花	1007ローバ
トウモロコシ	30 袋
緑 豆	10 袋
アエシロン	10 袋

ニ) 鶏卵 1箱(80ダース)

物 大	6,000	クルセイロス
A 型	5,700	"
B 型	5,600	"
C 型	5,500	"
D 型	4,200	"

(注) 規格は卵の大きさにより差別して箱詰めで出荷されている。

5) 営農資金等融資

入組者の営農の安定と発展を図るため、移住農林公社がグアルゼア、アレジレ産菜組合及び同組合を通じて入組者に融資した当初より貸付金額は次の通りであるが、初期の融資金は営農資金としての所要金額に逆していかつたため、資金効率が悪く生活補助的に使われた傾向もあり営農成果が上がらなかつたので、昭和37年融資方法を改善し所及金額にみあう営農資金を貸付けるようになりつたので効果は期待されるようになった。

1) 入組者関係 (昭和38年6月末現在)

養豚資金 (35年)	230	コントス
短期営農資金 (36年)	1,400	"
長期営農資金 (36年)	1,400	"
長期営農資金 (36年)	3,500	"
短期営農資金 (37年)	8,087	"
長期営農資金 (37年)	1,0080	"
短期営農資金 (37年)	1,400	"
長期営農資金 (38年)	1,000	"
計	67,047	"



系で、授業に日本語を交えてくれるので好評である。

なお当國の入学適介は日本と同じで満り才である。生徒数はブラジル人子弟を含め約100名である。当移住地の義務教育年限は8年であるため当初は師範学校卒業の正男教師が配属されていたが、昭和38年1月正規の女教師を迎えることかできた。

学校教師に対しては日本政府の補助金も交付されているが、薄給のため優秀な教師を迎えることができないので父兄が表出してその欠を補っている。

カンボングラツング市には中学校はもとより高等学校や大学もあるので移住地から5名が遊學しているその内1名は中学校に在學し優秀な成績を収めている。

移住地には風土病はなく、全般的に健康状態は良好であるが、人権者の保健衛生増進のため過去2年間は一学期ごとにサンパウロから医師が現地を訪問し巡回診療にあたっているが、急患の際はカンボングラツング市の医師(日本人)の治療を受けている。

カンボングラツング市には日本人の産婦人科、眼科、耳鼻科及び齒科の専門医があるがその診療費、手術費等は日本に比して著しく高額であるので入植者の負担軽減のための対策を打ち出す必要がある。

過去2ヶ年間の主な疾病は、麻疹1件、無胎1件及び外傷3件であった。

出産日には隣近所の婦人が手助けを行なっているが、初産の人は殆んどカンボングラツング市の産院に入院している。

## Ⅷ. 移住地の動物

猪は猪、柑橘、ユウカリ等にも被害を与える、とくに猪は1夜に1尺歩近くの葉が切り落される葉に持ち去られる、夜行性のため夜間に結果を発見しておいて朝間に果品で採集を知らなければならぬ、行動範囲が広く雌雄は雄猪より4:5:6を離れている場合もある。

隣部に被害を与えるのにオームがある。オームは葉を啄むのみでなく樹皮を切断して葉に運び去るのでその被害は甚大である。

其他鳥類ではツララ、ハト、ヤンヅサ、カモ等日本に類似したものが多くみられるが南米特産の蜂鳥、ダチコウ、ワルブ(蜂の1種で牛、馬の膈膜肉を常食としている)等も棲息している。

哺乳類では兎、猪、鹿等は日本のものに極めて近いものかおる反面、バク、鼠、イ、クワンソウ等南米特産のものもみられる。

毒蛇、毒蜘蛛も数々みられるが、被害は殆んどなく毒蛇に咬まれたのは僅かに2例に過ぎない、しかも事業所と産業組合に尖々血槽を常備しているので、毒蛇に咬まれても早急に手術が出来生命の危険はない。

移住地内の河川には魚類(バク、ドラドス、ピラニア等)が豊富で入植者に釣りの楽しみを与え食糧をかざつてくれる。

## Ⅸ. ブラジル人の風俗、習慣

入植者は移住地の開発、経営にブラジル人労働者の労働力に依存することが極めて多いし、彼等を巧みに使役するか否かはその成否にかよつていゝというも過言ではない、そのため彼等労働者の風俗、習慣を熟知することが極めて重要である。労働者は移動がはげしく定着せしめるのは困難である。労働者の能率を上げるために諸負担度が行なわれている。除草はヘクロール草酸、取成は取成草酸等であつて、日当制は非常に生産能率か

このため英租合では労働者の非つせん、戦争の解決等を行なっている、此等労働者の風俗、習慣の一例をあげると次の通りである。

- 1) 言語…… パラグアイ国に移民しているのでパラグアイ人労働者も多く入りこんでおり、國語のポルトガル語のほかスペイン語、ガウチイ語も使用されている。
- 2) 食料…… 米を常食とすることは、日本人同様であるが、肉、フエジョン(豆)、コーヒー、マカ茶等は労働者に欠くことの出来ない必需食品であり、このうち肉及びフエジョンは日本人になじめないため往々にして労働者の食事にこれらを加えられないので不満を買い、労働者を養ふしめる割合が多い。
- 3) 服装…… 洋服は極めて粗末なものをして着保持しているにすぎない、気温が高いので洋服はきわめて簡便である。日常は裸足で生活し農耕作業に従事するときは粗末な綿製のズツク靴を使用する。
- 4) 家族…… 一般に多産で子供が多いが、教育を受けたいため非常に粗野である。
- 5) 家具…… 移動労働者であるため住みつくことは少なく寝具、食品等も粗末である。簡単な寝台を借り布疋1〜2枚で寒さをしのいでいる。
- 6) 労働者の日常…… 殆んどが時計を持たないため太陽が東都となり日の出とともに起床し夕方早く仕事をきりあげている。日曜、祭日は仕事を休み、衣服を改めて知人を訪問し終日雑談に終する。

## X. 移住地における高給点

### 1) 入植者について

#### イ) 分家独立について

入植後滿4年を経過したので入植者の中には子弟を分家、独立させる時期に到つていゝるものがあった。過耕者かあとをたふないので分家、独立を希望する青年には優先してその希望をいれるべきであると考へる。なお、分家独立を希望する改訂者を示すところとおりである。

田曾耕司 翁本政雄 穴戸裕雄 秋波朝視 鈴川伊助 小川左平治 小倉勇一等の子弟、石井光雄(木原市次郎の同伴者)

#### ロ) 現地分譲の実施について

一括払という現在の土地分譲方式では、入植後日の短い移民者の子弟の現地入植は困難なので、これを改め日本よりの移民入植者に対する分割払方式を採用すべきである。

中村喬二氏は分割払を希望し現地会社と話し合いの上日本方式による入植をしたが、本社の意向で容れられず1時的な借地契約方式がとられ地重負担に喩いでいる。

#### ハ) 山口県出身者の土地代金について

山口県出身者、野原誠、中下精、野原正治の名は土地代金返還額を被流明に山口県移住振興特別基金より借入れ、移住会社へ一括支払つて入植したが、現在は退耕している。

是るに当人達は会社より地券を得ていないにもかゝらず土地所有権を主張して譲らないので空ロツク

の管理を会社としてすべきであるにも拘らず出来ず困窮している。

他方同じ山口県出身者であるが土産代金の一部を味から借入れて移住協会に貸付し入植した者でその後退耕したときに契約に基いて創約預金として土地代金の $\frac{1}{3}$ が会社が徴収され同じ山口県出身の入植間に不均衡を生じている。

## 2) ヴァルゼア・アングレ事業所の運営について

### イ) 事業所移転

事業所は開設以来5ヶ年を経過し、その間事業所職員は移住地の建設及び入植者の援助、指導等に全力を傾注して従事してきたが、37年12月には入植者の組織するヴァルゼア・アングレ産業組合は勤務省より認可されたので組合の運営、発展にも事業所職員として協力して来た。全てがヴァルゼア・アングレ移住地を対象としての活動であったが、昭和38年7月15日海外移住事業団の発足に伴ない、当該事業所業務も単に一移住地の発展に限定せず、マント、グロツン州全域内日本人移住者、3,400戸の援助、指導を行うべきでありそのためには地理的にみて州南端の中心都市カンボ、グラウンズ市に事務所を移転すべきであると考えた。

永く移住地内に事業所を存続することは、入植者をして閉鎖社会を形成せしめるのみならず事業所支の依頼心を強くする弊弊甚のみ多く、効果はあからないと考える。

### ロ) ヴァルゼア・アングレ産業組合の援助

ヴァルゼア・アングレ産業組合は組合員が少ないため運営に種々の支障を生じている。従つて産業組合業務の専門家によつて、組合員の講習訓練、組合業務の合理化、組合運営上の求産業務等について指導援助及び応援を行なう必要がある。

### ハ) 委託工事会計の廃止

建設工事期として、移住地建設当時購入したブルトナーゾD7(マヤクビラ)は、建設工事の中止により委託工事会計(退立減価償却)により運営されているため採算上非常に無罪を生じている。

ブルトナーゾは主として收貯改良、道路補修及び閉居等に利用され、移住地開発には欠くことの出発点ないものであるがD7は種々大型に適さず不経済であるから、これは買取り新たにD4を購入し併せて委託工事会計は廃止すべきである。

### ニ) 庶務牧場の運営

前述のとおり移住地の土地利用方法及び牧畜経営への移行問題の解明のため昭和37年12月4日牧場より210頭の放牧牛を導入し試験放牧を行ない優れた成績を取めた。牧草の適品種とみられるものは、ジャラダクア、カジビンゴルドクラ、コロムオン等である。

入植者の繁栄と経営安定には放畜は不可欠であるので、今後は入植者に増殖牛を分譲する方策をとるべきであるか、その前に予め次の諸点を更に研究しておくてはならない。

放野改良、種牛改良、放牧牛の自本人的管理法、優良牧草の普及、施設維持管理法、牧場運営法、市場

開拓

### ホ) 一般入植者貸付方法の検討

一般入植者の必要とする常設資金の貸付にあつては豊富な担保物件を提供するのみでなく保証人2名(保証人の器名には法規に従い妻の署名を必要)を要するが、独立を希望する青年について保証人2名を要求することは無理と考える。又資産を有する保証人がある場合には一般についても保証人を2名要求す

ることは検討の要がある。

### 8) 移住地の管理について

#### イ) 市街地造成

ベドロ・セレスナーノ駅の南側に市街地を造成し一般に分散することは移住地発展の必要条件と認められるし、現地の伯領人も早期にこれが実現することを希望していたので、昭和30年当初より市営所では実施計画を作成し、現地関係機関と協議してその協賛を得ておるにもかゝらず来たが工に到っていないので早急に着手して伯領人を招致定住せしめ商業的発達をはかるべきである。

#### ロ) 移住地境界線の確定(マリオカワツト氏との境界)

移住地の北西部、マリオカワツト氏との境界線は当初から明確でなかつたのでサンパウロ支店自ら解決に乗り出す方針であるにもかゝらず来たに解決されず放任されたままである。

#### ハ) 未利用地(残地)の取扱

従来より未利用地の排設については種々検討されているが未だに具体的な方針が打ち出されていない。

#### ニ) 退耕者等のロツア取扱

退耕者及び移住者のおと地ロツアについては、現地では借地を希望する者も少なくないので早急に利用方法を定める必要がある。

#### ホ) 移住地管理制度の確立

移住地開設以来既に4ヶ年を経過しているにもかゝらず未だに移住地管理制度については明確な指示がなされないので入植者は不安を覚え、日本国への依存心を強めている現状である。

管理については今後共に援助を必要とするが、目前生活については一日も早く自立体制を確立すべき時期であるので明確なる管理方式を設定する必要がある。早急に移住地管理方式を明示し入植者に自立団体の心を醸成する方が肝要である。

#### ヘ) 農業組合共同牧場の設置

農地は既に於て牧畜物を増たない移住地の発展に繋げない、従つて当該地の受開墾安定計画に放牧方式による肉牛飼育を繰り込ませべきである。その実施にあつては先ず農業組合に対し相当区域の放牧地を貸付けるとともに入植者に対して少なくとも1.0.0以上の放牧牛を所有せられは安定した生活が維持出来る。現在事業団経営でかゝる試験放牧牛を逐次入植者に分散し飼養について適切な指導、援助を与えれば、必ず成功するものと考えられる。

#### ト) 農産加工場の設置促進

養鶏飼料には油類が必要であるが並い当地は落花生の生産に適し雑穀作物でもある。近時当地方の食油需要は、豚脂より次第に植物油に移行しつつあるため販路も広いし、入植者の食生活改善の面からも生産すべき作物である。従つて有利に取引するたつと和州の利用の面からも植物油場の設置が必要となつてい

#### チ) 嘱託医師の制度化

既に記したように早く入植者の教育と衛生)4半期に1回の割合でサンパウロ市の同仁会医師が巡回診療を行なつていて、現在日数か1〜2日では充分な手当てが受けられない、しかも入植者の多くはカンボ、グランザ市在住の日本人医師を利用しているのでカンボ、グランザ市に嘱託医師を指定されれば当該地の入植者は勿論近郊入植者も恩恵を受けることが出来る。

リ) 教育施設の整備

移住地は奥地であるため正規の教師を迎えることは非常に困難である。

現在入植者の負担で正規の教師1名を迎えて子弟の教育を行なっているが、まだ充分とはいえない状況であるので教員宿舎、校舎の増築等、教育施設の整備充実をはかり正規教師の招聘を容易にするよう配慮する必要がある。

ヌ) 青少年の教育

移住地の青年男女は中学教員養成、及び中退者である。

人格形成期に移住地におつて日夜営々として薫育働に従事しており、適切な指導者はもとより適当な指導者にも恵まれない。このまゝ維持したならば日本人として伯國人の期待に合うような人格形成を期すべきことは不可能と考えられるので一日も早くこれら青少年の能力を伸張する適切な施設が考えられるべきである。